

第3回 甲賀市総合計画審議会意見（抜粋）

- 外国人の子どもが日本語教室に通いたくても、送迎に課題を抱えているのが現状。
- 「世界の果てまでイッテQ」に信楽焼が出ていた。あの放送を観て、甲賀市に生まれてよかったと感じた。シビックプライドの醸成にもつながると思う。
- 児童クラブや日本語教室などに大学生の力を借りることはできないか。
- 太陽光パネルの設置に、景観上の課題を感じる。何かしらの規制が必要な時期を迎えているのではないか。
- 遊休農地や荒廃地に安易に太陽光パネルを設置すべきではない。一方で、脱炭素社会の実現に向けて両立が必要である。
- 福祉制度全般について、行政職員の知識が不足しているのではないか。また、様々な制度をわかりやすく伝えることができる職員の育成に努めてほしい。
- ご近所福祉協議会の取り組みは、先進自治体の取り組みを見習い、全体的な事業の底上げをしてほしい。
- 生活困窮者に対しては、相談窓口の設置などの受け身ではなく、積極的にアウトリーチでサポートする体制が必要である。
- 食育については、学校現場で積極的に取り組むとともに、地産地消と一緒に展開できないか。
- コロナ禍における外出自粛で、認知症患者の増加や運動機能の低下が懸念されている。オンラインによる健康指導等を導入してはどうか。
- 空き家バンクの登録件数が少ない。自治振興会等と連携するなど、地域住民の力を活かす仕組みへ取り組み方法を変えるべきではないか。
- 空き家を若者、女性、子育て世代の居場所に活用するための支援をしてほしい。
- 災害時の地域での助け合いや、迅速な情報提供に不安を感じている。「迅速な情報提供」等の文言の追加が必要ではないか。
- SNS等を活用し、新しい地域ブランドの発信や、クラウドファンディングによる資金調達に取り組んではどうか。
- 雇用は有効求人倍率や雇用総数が多ければよいわけではなく、どのように活躍していただき、満足しているかが大切。
- 男女格差はまだまだ解消されていない。女性の活躍をバックアップできる仕組みが必要ではないか。
- ここ20年で子育てに係る医療費助成や子育て支援策は格段に良くなった。これらの経過や状況を他市と比べるなど「見える化」することが重要ではないか。
- コロナ禍で産後うつが増えており、産後ケアの充実が必要ではないか。